

中長期的な事業運営

当社グループのCSRは、高速道路事業を
着実に進めることにあると考えています。

お客さまの安全・安心・快適・便利を支え、
高速道路ネットワークを整備することで、
「つなぐ」価値を創造し、いつまでも、どこま
でも高速道路は、地域の生活に身近な存在
であり続けます。

24時間365日、
安全・安心・快適・便利に

管理事業

渋滞対策／交通安全対策

レジリエントな高速道路の取組み

サービスエリア事業

暮らしやすさを追求し、
ネットワーク効果を最大限に

建設事業

事業の状況と整備効果

皆さまの期待に応える
身近で開かれた高速道路へ

環境負荷の低減

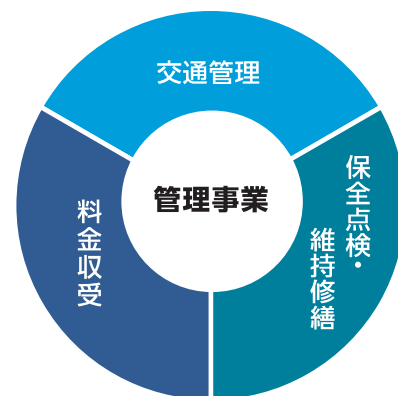
地域とのつながり

地域の活性化と経済貢献

24時間365日、安全・安心・快適・便利に

管理事業

高速道路のプロフェッショナルとして、安全・安心・快適・便利な高速道路空間を提供することに取り組みつつ、事業の安定運営に向け、未来への準備もはじめています。



交通管理 ～道路交通を見守り、お客さまの安全を守る～



交通巡回(落下物排除作業の例)



料金所入口での法令違反車両の指導取締り

[交通巡回]

24時間365日、高速道路を巡回し、道路・交通などに異常がないかを確認しています。異常事象(事故・故障車・落下物など)発生時には、現場に急行し、警察・消防機関などと連携し、車線規制や事象の対応に当たります。

[法令違反車両の指導取締り]

法令で決められた車両の長さ・重量などの最高限度(一般的制限値)を超えた車両や長大トンネルなどを通行してはいけない車両(禁止されている危険物を積載した車両)の走行を防ぐための指導取締りを行っています。

[交通管制]

「道路管制センター(交通管理業務の司令塔で管内4カ所に設置)」において、高速道路の状況を把握し、異常事象への対応やお客さまへの情報提供を行っています。また、トンネル・非常用設備などの常時監視を行い、日夜、お客さまの安全・安心を支えています。



国内最大級パネルを誇る関東支社道路管制センター

保全点検・維持修繕 ～良好な状態を整え、快適な走行環境を確保～

路面や道路構造物・附属物の点検や清掃、高速道路周辺の草刈りなどを実施するとともに、計画的な補修工事による高速道路の維持に努めています。また、ICTやロボティクス、AIなどの最新技術を積極的に活用し、道路管理の効率化・高度化を目指す取組みとして、SMH(スマートメンテナンスハイウェイ)プロジェクト(→ P.44)を推進しています。



植栽作業(草刈り作業の例)



事故復旧工事



橋りょう点検

料金収受 ～高度化・効率化を推進～

お客さまの安全走行を確保し、料金所の適切な車線運用に取り組むとともに、快適にご利用いただくために接客マナーの向上に努めています。

また、生産年齢人口の減少を見据え、料金精算機の導入や遠隔対応に取り組むとともに、ETC専用料金所を運用するなどキャッシュレス化やタッチレス化を進めています。



遠隔地から料金収受を行うオペレーションセンター

高速道路の維持管理に関するデータ

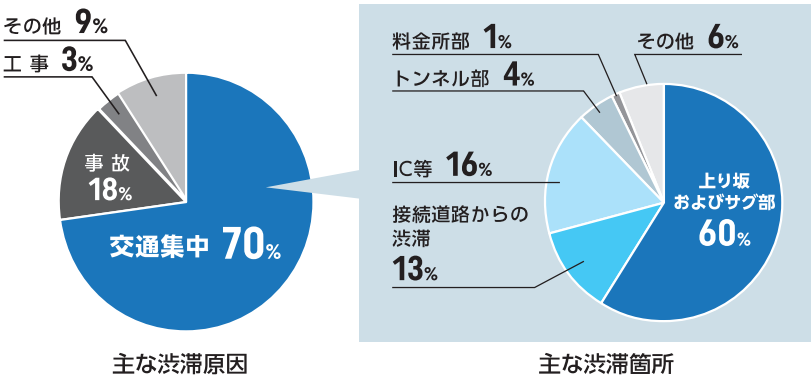


渋滞対策／交通安全対策

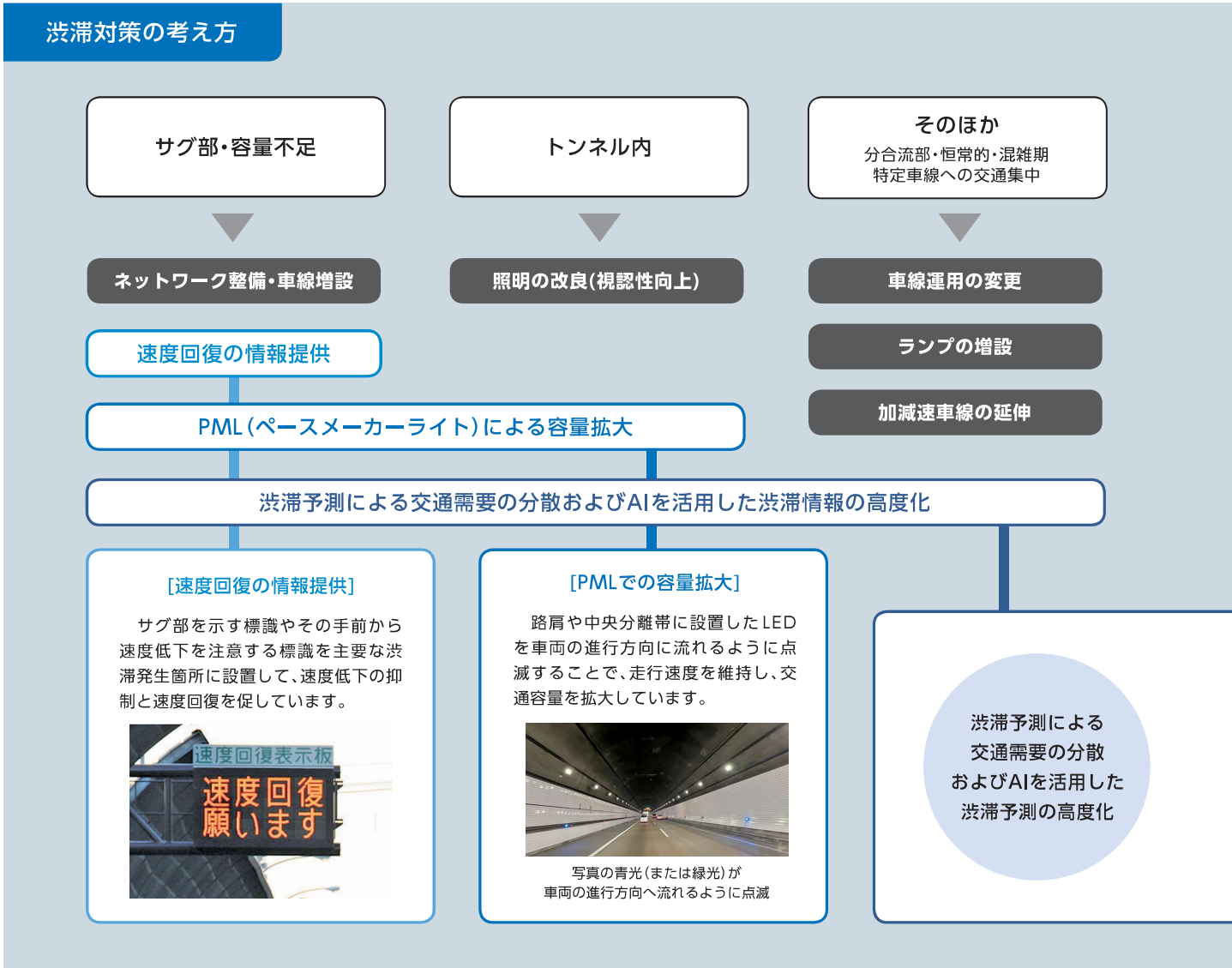
渋滞対策 ～発生原因に応じた解消・緩和策の実施～

[交通集中による渋滞の6割が「サグ部」で発生]

渋滞発生時の70％は、交通集中によるもので、このうち60％が上り坂とサグ部(下り坂から上り坂へ変わるポイント)で発生しています。



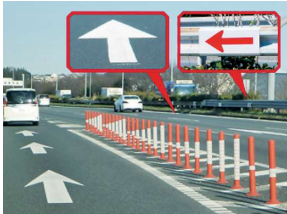
サグ部での渋滞



交通安全対策 ～交通安全施設および啓発の充実～

[交通事故リスクを低減させる対策を実施]

[逆走防止] 2日に1回以上発生する逆走を防ぐため、進行方向を示したり、逆走車への注意喚起などに取り組んでいます。また、料金所通過後に誤って反対車線に進入することを防ぐため、料金所プラザ部(料金所前後から分合流部までの箇所)の締切対策を実施しています。さらに逆走車を感知したときにだけ発光し、「逆走戻れ」のように警告する表示板もあります。



進行方向を示す逆走防止対策(合流部の例)



注意喚起看板(休憩施設流入部)



締切対策(料金所プラザ部)



逆走防止装置と逆走防止標識

[安全対策] スピードの出しすぎや暫定2車線区間での正面衝突、車線からの逸脱や人の立ち入りを防ぐ対策などに取り組んでいます。



反対車線への飛び出し防止(暫定2車線区間のワイヤロープ)

[規制内への進入防止] 簡易ハンプ(居眠りやわき見運転防止のために、色・音・振動で車両に注意を促す器具)の振動などで、工事規制があることをお知らせしています。



簡易ハンプ

[地域とともに、効果的な交通安全啓発を実施]

地域の警察、交通安全協議会などと協力し、交通安全キャンペーンやイベントを開催し、チラシやリーフレットなどにより、高速道路での安全運転(交通法規の遵守、高速道路ドライブ時の注意、マナーアップなど)を呼びかけています。あわせて、特設サイトを設けて、安全運転の呼びかけを行っています。



交通安全キャンペーンによる啓発活動

● 当日の渋滞予測(AI渋滞予知)

(株)NTTドコモと協働し、リアルタイム人口統計データに過去の渋滞データや交通工学的知見などをかけ合わせたAI渋滞予測の技術を開発し、東京湾アクアライン、関越道、京葉道、館山道(すべて上り線)を対象に、14時以降30分ごとの予測所要時間や予測交通需要を毎日13時に公開しています。

● 長期の渋滞予測

お客さまの旅行計画の参考としていただくべく、年間分の渋滞を予測し、数か月先の渋滞予測情報をHPなどで公表しています。



「AI渋滞予知」の詳細はこちら https://www.driveplaza.com/trip/area/kanto/traffic/ai_traffic_prediction.html

レジリエントな高速道路の取組み

大規模な地震、気候変動がもたらす災害（激甚化・頻発化する台風や豪雨・豪雪）への備えと被災後に高速道路機能を迅速に回復する取組みを推進しています。

災害への備え

【被害の最小化と高速道路機能の早期回復】



落橋防止装置（一例）

地震による橋りょう・高架部の倒壊や、橋げたのズレ、路面の段差発生を防ぐため、橋脚の補強、落橋を防止する装置を施しています。また、豪雨などでの土工部の崩壊を防ぐため、盛土内に溜まった水を取り除く装置を施すなど、さまざまな対策を実施しています。

特に、大規模地震の発生確率が一定以上の地域については、「高速道路の耐震補強実施計画」に基づき、対策を加速しています。



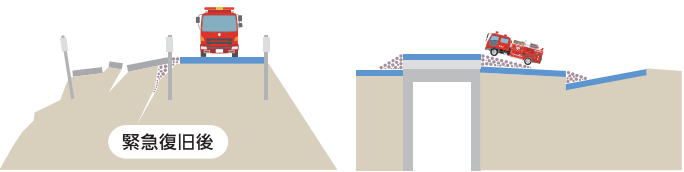
「高速道路の耐震補強実施計画(2024年1月13日)」の詳細はこちら
https://www.e-nexco.co.jp/news/cms_assets/news/2024/01/13/02.pdf

【地震直後の早急な点検と復旧作業で「命の道」を確保】

被災地に緊急車両や支援物資などを運ぶ「命の道」という役割を果たすため、道路復旧を3段階（緊急復旧・応急復旧・本復旧）で行います。緊急車両が通行可能な緊急復旧は発災から約24時間以内、一般車両も制限付きで通行可能な応急復旧は発災から7日以内を目標として復旧作業を実施します。

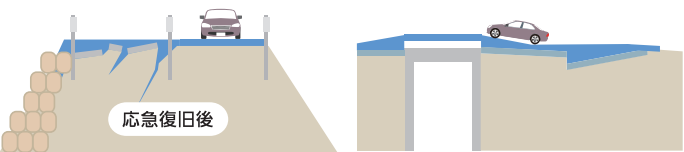
【STEP 1】 緊急復旧（約24時間後）

土のうなどにより緊急車両の交通を確保



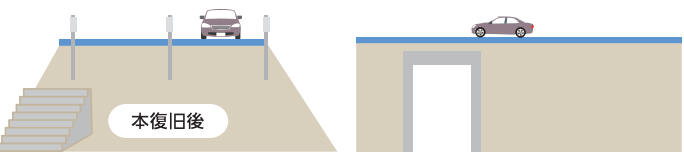
【STEP 2】 応急復旧（約7日後）

一般車両が制限付きで安全に走行できる路面レベルを確保



【STEP 3】 本復旧

高速道路本来のサービスレベルの路面を確保



（赤字は地震発生からの復旧時間）

【盛土・路面の復旧事例】



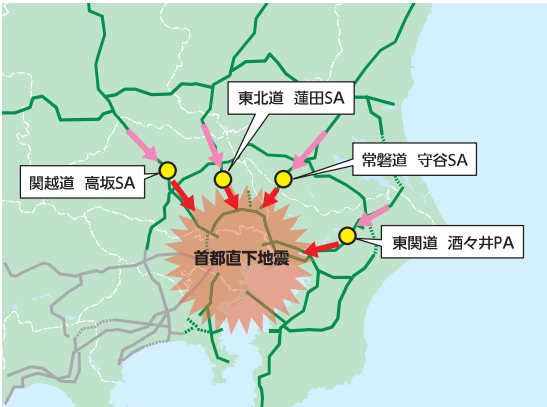
2022年3月16日 福島県沖地震 被災直後の状況
（東北道 国見IC～白石IC間）



2022年3月17日 応急復旧後の状況
（発災16時間後 通行止め解除）

【防災機能を備えたSA・PAの整備 ～首都直下地震に備えて～】

警察、消防、自衛隊やDMAT（災害派遣医療チーム）などの利用を想定し、首都圏直下地震道路啓開計画「八方向作戦」による「防災機能強化エリア（井戸・ヘリポート・防災備蓄倉庫・自家発電機・石油タンク容量の増強）」を整備し、災害対応に備えています。



「八方向作戦」に基づく防災機能強化エリア



防災機能強化エリアでの合同訓練（東北道 蓮田SA上り線）

気候変動がもたらす災害への対策

水害（線状降水帯の発生による連続降雨・ゲリラ豪雨・近隣河川の越水や氾濫・高速道路外からの流水など）により高速道路施設に大きな被害が生じないように、道路のかさ上げなどの対策を講じています。なお、気候変動が避けられない状況に対応する適応策は「NEXCO東日本グループ カーボンニュートラル推進戦略（→ P.53）」にも盛り込んでいます。



河川の越水で冠水した常磐道 水戸北スマートIC

TOPICS

人命を最優先に、大雪の影響を最小限に ～雪道の安全対策～

当社グループは、冬期の気象状況が厳しい地域を多く抱えています。そのため、お客さまの安全な走行を確保するうえで、除雪や路面凍結の防止は、重要なミッションです。2024年度は、例年に比べ各地で降雪が多く、2月上旬に北海道帯広での記録的な大雪や、3月上旬に首都圏広域での降雪などもありましたが、過去の経験（大雪に起因した最大2,000台超の滞留車両の発生）をふまえ、車両滞留を徹底的に回避するため「予防的通行止め」を実施するなど、人命を最優先する対応に取り組み、冬期を乗り越えました。

高速道路の除雪作業などを行う社員の声はこちら
いすゞタウン（いすゞ自動車㈱ 提供）
高速道路の「安全・安心・快適・便利」を24時間365日守りつづける仕事
（株）ネクスコ・メンテナンス新潟
<https://www.isuzu.co.jp/town/hiroba/people/04/>

除雪作業による
走行距離

690,000km
（地球を約17周分）

サービスエリア事業

円滑な道路交通を確保するだけでなく、SA・PAのクオリティを高め、お客さまニーズの変化へ
応え続けることも、当社グループのCSRの一つです。

商業施設の充実 ～より便利で快適を追求～

華づくり



7カ所



20カ所

礎づくり



111カ所



48カ所

上記のほか、自動販売機設置エリアを128カ所、トイレのみのエリアを5カ所設置



気軽に食事を楽しむためのフードコートを整備



エリアコンシェルジェによる案内の充実

施設のバリアフリー

ユニバーサルデザインを取り入れて、段差解消、障がい者等
用駐車スペース（商業施設の近くに駐車マスを確保する「おも
いやり駐車マス」を含む）の設置やインフォメーションへの車
いす・筆談ボードの配置など施設のバリアフリー化を進めてい
ます。

【「華づくり」と「礎づくり」】

個性的なサービスを目指す「華づくり」と、全
般的な質の向上を目指す「礎づくり」を追求し、
魅力的なSA・PAへ、リニューアルを進めてい
ます。

【 ニーズにあわせた食事スタイル 】

「ゆったりと食事を楽しみたい」「さまざまな
メニューを気軽に楽しみたい」「地域の食材を
使った食事を楽しみたい」などのニーズに応え
るレストラン、フードコート・カフェなどの充
実を進めています。

【 安心をサポート 】

エリアコンシェルジェがいるインフォメー
ションでは、「観光施設における心のバリアフ
リー（観光庁）」や「外国人観光案内所（カテ
ゴリー 1）（日本政府観光局）」の認定を取得し、お
客さまに寄り添ったご案内を行っています。

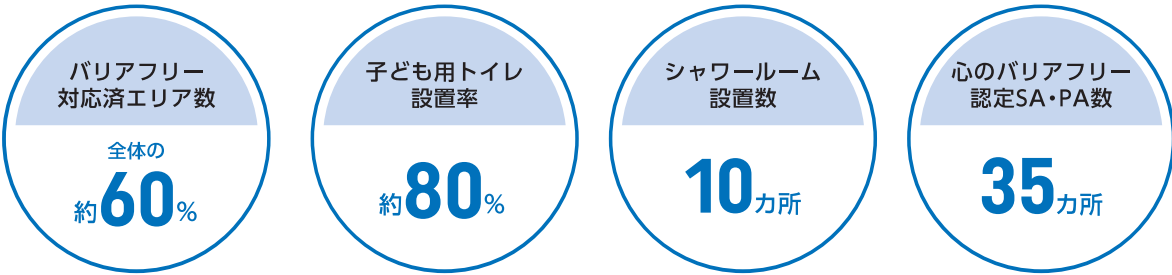
【 快適をサポート 】

小さなお子さまをお連れの方やお体の不自
由な方も安心して利用できる施設（ベビーケア
ールーム、多機能トイレなど）やお客さまニーズに
応える施設（シャワールーム、パウダーコーナー
など）を整備し、快適な休憩を支えています。



おもいやり駐車マス

SA・PAに関するデータ



TOPICS

混雑する「大型車駐車場」への対応 ～適正な駐車マス数の確保と効率的な運用～

ニーズの多様化、多頻度・小規模運送の増加などにより、高速道路の輸送量が増加し、SA・PAにおける大型車の混雑
が顕在化しています。大型車の混雑対策としては、2024年度は大型車駐車マスを107マス増設しました。また、SA・
PAの利便性向上に向けた実証実験を実施しています。

【 短時間限定駐車マスの実証実験 】

駐車マスの一部を60分以内の駐車とする「短時間限定駐車マス」の実証実験を進めています。こ
の実証実験は、SA・PAにおける長時間駐車車両の存在により、休憩機会を逸失している大型車ド
ライバーに対し、確実な休憩機会を確保することを目的としたものです。今後は実証実験の状況を
ふまえ、整備箇所を拡大する計画としています。

【 短時間限定駐車マスの導入箇所（2025年4月1日時点） 】
東北道 蓮田SA（上り線）、大谷PA（上り線）、上河内SA（上り線）、那須高原SA（上り線）、安達太良SA（下り線）、
吾妻PA（下り線）、国見SA（下り線）、菅生PA（下り線）



【 ダブル連結トラック駐車場予約システムの実証実験 】

国内の物流を支えるトラックドライバーが不足する中、
1台で通常の大型トラック2台分の輸送が可能な「ダブル連
結トラック」の導入が進んでいます。休憩機会確保のため、
駐車マスの整備を進めるとともに、「ダブル連結トラック駐
車場予約システム」の実証実験を東北道 那須高原SA（上り
線）で開始しました。ETC2.0搭載車を対象に最大3台まで
事前予約を受け付けています。



ダブル連結トラック駐車場予約エリアの全景

【 IC内側駐車場の実証実験 】

SA・PAなどの不足を解消し、良好な運転環境を実現することを目的に、
SA・PA間の距離が35km以上となる休憩施設空白区間について、IC内側の
管理用敷地を開放し、短時間の休憩を可能とする臨時駐車場を整備し、実
証実験を進めています。

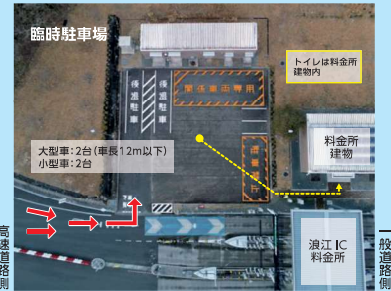
【 IC内側駐車場の導入箇所（2025年4月末時点） 】
北関東道 桜川筑西IC、常磐道 浪江IC



「短時間限定駐車マス」の詳細はこちら
https://www.e-nexco.co.jp/pressroom/head_office/2024/1225/00014426.html



「ダブル連結トラック駐車場予約システム」の詳細はこちら
https://www.e-nexco.co.jp/pressroom/head_office/2024/0213/00013480.html



暮らしやすさを追求し、ネットワーク効果を最大限に

建設事業

高速道路ネットワークの整備を着実に進めることで、災害時の代替路を確保するとともに、「安全・安心・快適・便利な高速道路サービス」を提供し、地域社会の暮らしの向上へ貢献していきます。

ミッシングリンク（道路が途中で切れている未開通区間）の解消

首都圏では、圏央道 境古河IC～つくば中央IC間(2017年)や東京外環道 三郷南IC～高谷JCT間(2018年)の開通により、関越道から東関東道まで複数のルートでつながり、利便性が向上しました。

現在も圏央道や東京外環道などの整備を進めています。ミッシングリンクの解消は、移動時間の短縮、地域経済の活性化や災害発生時の緊急輸送路としての役割が期待されます。

暫定2車線区間の4車線化

4車線化することで、渋滞の解消・緩和、反対車線への飛び出しなど重大事故の防止、維持修繕工事や事故発生時などの通行止めの減少が見込まれます。また、時間信頼性の確保、災害・大雪時の交通機能確保にもつながることから、計画的に4車線化を進め、安全・安心のための機能向上に取り組んでいます。

スマートICの設置

既存の高速道路を有効に活用し、地域生活の充実や地域経済の活性化を推進するため、通行をETC車に限定した低コストで導入できるスマートICの整備を各地で進めています。

【スマートICの設置】



圏央道 つくば西スマートIC

【ミッシングリンクの解消】



横浜環状南線(圏央道) 釜利谷JCT～戸塚IC 戸塚トンネル坑内



圏央道 大栄JCT～松尾横芝IC 大栄JCT

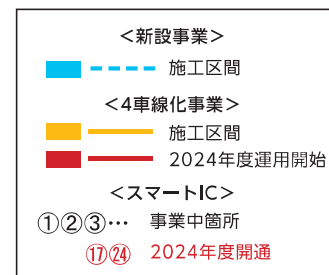
【暫定2車線区間の4車線化】



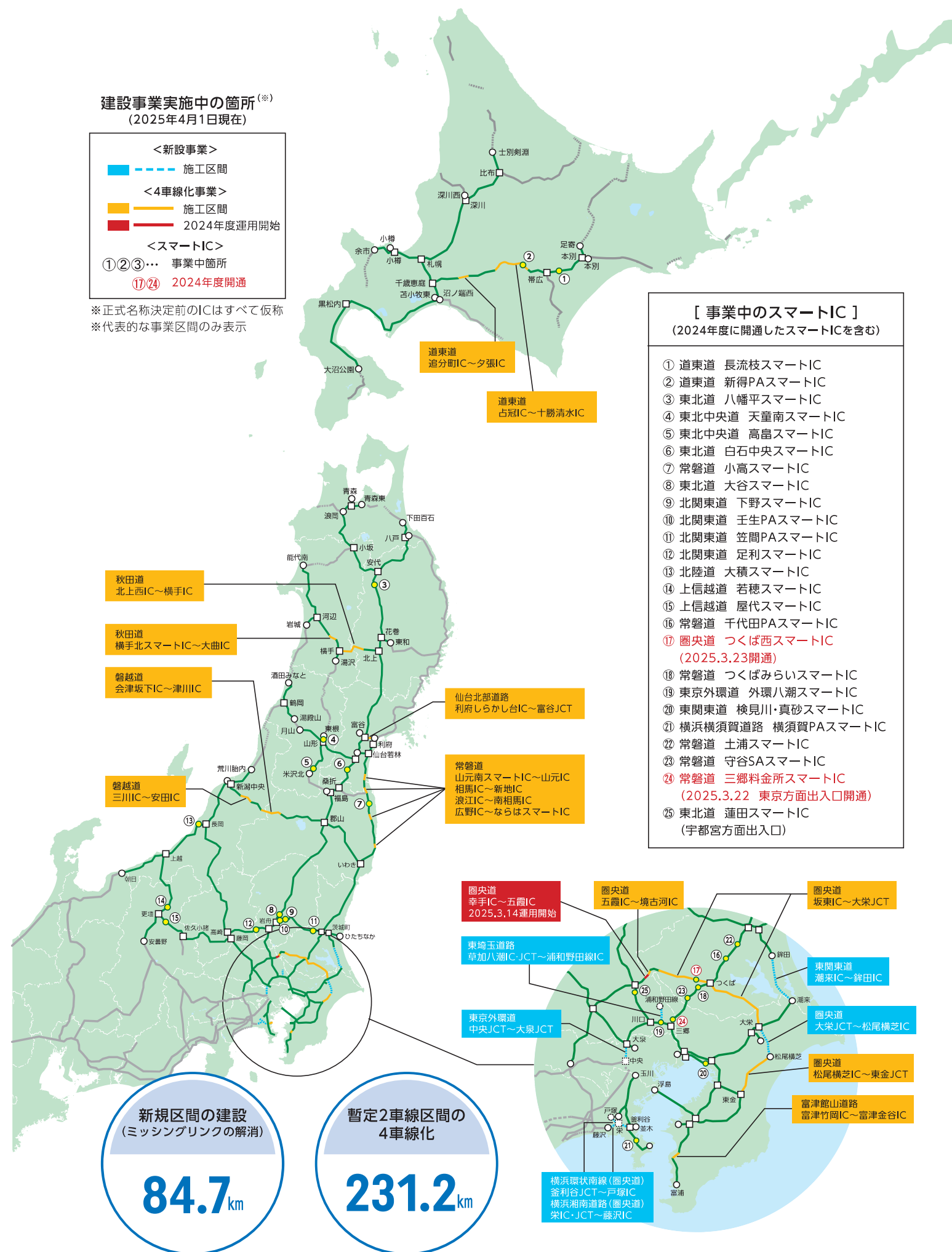
磐越道 三川IC～安田IC 宝珠山トンネル付近



道東道 トムムIC～十勝清水IC ペンケオタソイ川橋～広内トンネル付近

建設事業実施中の箇所^(※)
(2025年4月1日現在)

※正式名称決定前のICはすべて仮称
 ※代表的な事業区間のみ表示



事業の状況と整備効果

東京外かく環状道路

都心から約15kmの圏域を環状に連絡する延長約85kmの道路で、首都圏の渋滞緩和、環境改善や円滑なネットワークを実現するうえで、重要な道路です。現在、関越道と交差する大泉JCTから東関東道と交差する高谷JCTまでの約50kmについては開通しており、大泉JCTから東名高速までの約16kmについては、国土交通省、中日本高速道路（NEXCO中日本）と共同で事業を進めています。



「東京外かく環状道路（東京外環プロジェクト）」の詳細はこちら <https://tokyo-gaikan-project.com/>

期待される整備効果

関越道～東名高速間のアクセス時間短縮

交通の流れがスムーズとなり、走行速度の向上により、CO₂の排出量を削減することができます。

整備前

環状8号線利用

約66分

整備後

わずか約12分

東京外環道利用なら…

[出典]
整備前：平成27年度全国道路・街路交通情勢調査を用いて算出
整備後：東京外環道の設計速度を用いて算出

多様なルート選択で災害に強いまちづくりに貢献

2018年6月現在で208ルートだった東名高速から都心へのアプローチが、関越～東名間の開通でさらに選択肢を広げることができます。

388ルート

2019年10月営業中道路+外環(関越～東名)で試算

事業の状況

シールド工法によるトンネル工事

東京外かく環状道路の本線トンネルは、大泉JCT方面へ向かう車が走行する「北行トンネル」と東名JCT（仮称）方面へ向かう車が走行する「南行トンネル」で構成されます。完成すると、片側3車線の道路となります。

現在、大泉JCTを起点とした2本の本線シールドトンネルと、中央JCT（仮称）から2本、東名JCT（仮称）から1本のランプシールドトンネルの掘進作業を進めています。

南行トンネル(大泉JCT部)

地盤補修工事

調布市東つつじヶ丘2丁目付近において発生した地表面陥没・空洞事故（2020年10月18日）に関しては、事故による被害を受けた皆さまへの補償および緩ませてしまった地盤の補修工事を行っています。

住民の皆さまのご不安な気持ちを早く解消していただくとともに、工事中に仮移転していただく皆さまができる限り早く当地にお戻りいただくため、少しでも早い地盤補修の完了に向けて、2022年12月よりプラントヤードの整備などの準備工事、2023年1月より仮移転・買取にご協力いただいたお宅の家屋解体、2023年8月より地盤補修に着手しました。

引き続き、騒音・振動に配慮しながら地盤補修を慎重に進めてまいります。

工事の状況

工事中区間(ミッシングリンクの解消および暫定2車線区間の4車線化)の現況写真などをコーポレートサイトより確認することができます。



「高速道路の開通予定区間」の詳細はこちら https://www.e-nexco.co.jp/activity/agreeable/open_schedule/

開通後の整備効果

高速道路は、日常적으로ご利用されるお客さまだけでなく、日頃ご利用されない方も含め、日々の生活に欠かせないインフラの一つです。ネットワークの充実、生活をより便利で快適なものとし、地域の発展にも貢献します。整備効果については、コーポレートサイトでお伝えし、これからも人々や地球環境に寄り添いながら、地域と未来をつなぎ続けます。



「開通後整備効果」の詳細はこちら https://www.e-nexco.co.jp/activity/agreeable/detail_08.html

常磐自動車道 全線開通10周年

【常磐道全線開通による経済波及効果】

常磐道の全線開通後10年間で経済波及効果（生産額変化額）は、約3兆円に及びます。茨城県や宮城県などにおいて、各産業の経済活性化に寄与しています。

【高速道路による地域経済への効果】

全線開通後10年間の常磐自動車道の生産額変化額 約3兆円

1年あたりの生産額変化額（2015年：約2,880億円）
■：5億円未満
■：5億～10億円
■：10億円～50億円
■：50億円～100億円
■：100億円～300億円
■：300億円～500億円
■：500億円以上

*1 本資料における経済波及効果とは、企業活動における「生産額変化額」を指し、常磐自動車道の整備有無による実質生産額の変化額をSCGE(空間的応用一般均衡)モデルによって推計した結果を掲載している。SCGEモデルとは道路整備によって所要時間が短縮され、輸送・移動費用の低下が生じることで、企業や消費者に対して波及し、各地域の産業にどの程度影響を与えるかを推計可能とした手法であり、山梨大学・武蔵橋一教授の指導を受け事業者により算出。

*2 対象地域はETC2.0プローブデータによる常磐自動車道利用者の利用圏域に基づき、「青森以北」「岩手県」「秋田県」「山形県」「古川・石巻生活圏」「仙台生活圏」「相模生活圏」「いわき生活圏」「福島・郡山・白河生活圏」「会津生活圏」「水戸・日立生活圏」「土浦生活圏」「鹿島生活圏」「下館・古河生活圏」「栃木県」「群馬県」「埼玉県」「千葉県」「東京都」「神奈川県」「新潟県」「静岡県」「山梨以西」の22地域に分割し、エリアごとに経済波及効果を算定。

*3 民間企業資本ストック（2015年～2019年）及び固定資本ストック（2020年～2024年）の2015年比を乗じることで、10年間の生産額を算出。

TOPICS

社員が語る「ICT施工」「i-Construction」の推進 ～建設事業の生産性向上へ～

3D設計データやコンクリートの遠隔吹付を用いて「トンネル内作業の完全自動」を目指すなど、ICT（情報通信技術）を活用し、効率性・安全性・品質が高い工事を実現するための「i-Construction」に取り組んでいます。

「i-Constructionの取り組み（マイナビニュース）」の詳細はこちら <https://news.mynavi.jp/kikaku/e-nexco-sdgs-4/>

新潟工事事務所
高鍋 陽祥

皆さまの期待に応える身近で開かれた高速道路へ

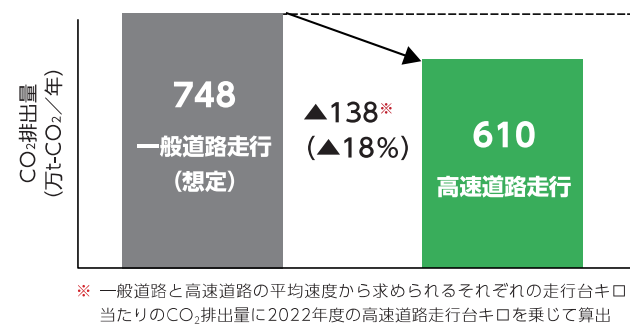
環境負荷の低減

ネットワーク整備によるCO₂排出量削減

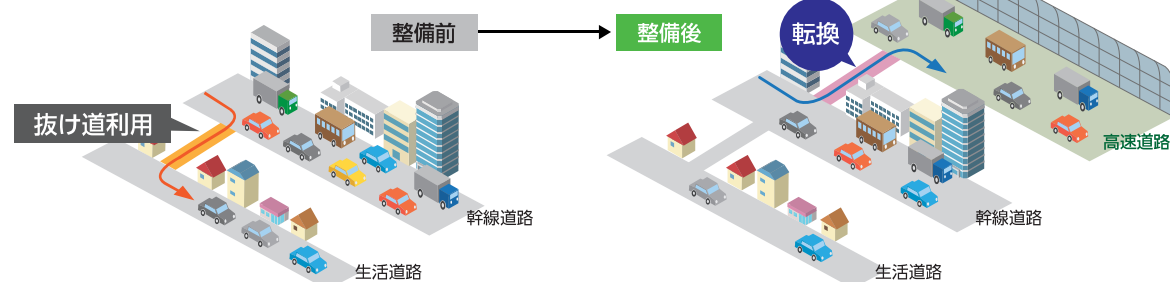
高速道路の利用により安定した速度での走行が可能となり、一般道の利用に比べてCO₂排出量が削減されます。これに加えて、通過交通が高速道路に転換し、一般道路の交通が円滑化されることによっても排出量の低減が期待できます。

このように高速道路ネットワークによる交通の円滑化により、CO₂排出量削減に貢献しています。

〔高速道路を走行することによるCO₂排出削減効果の想定〕

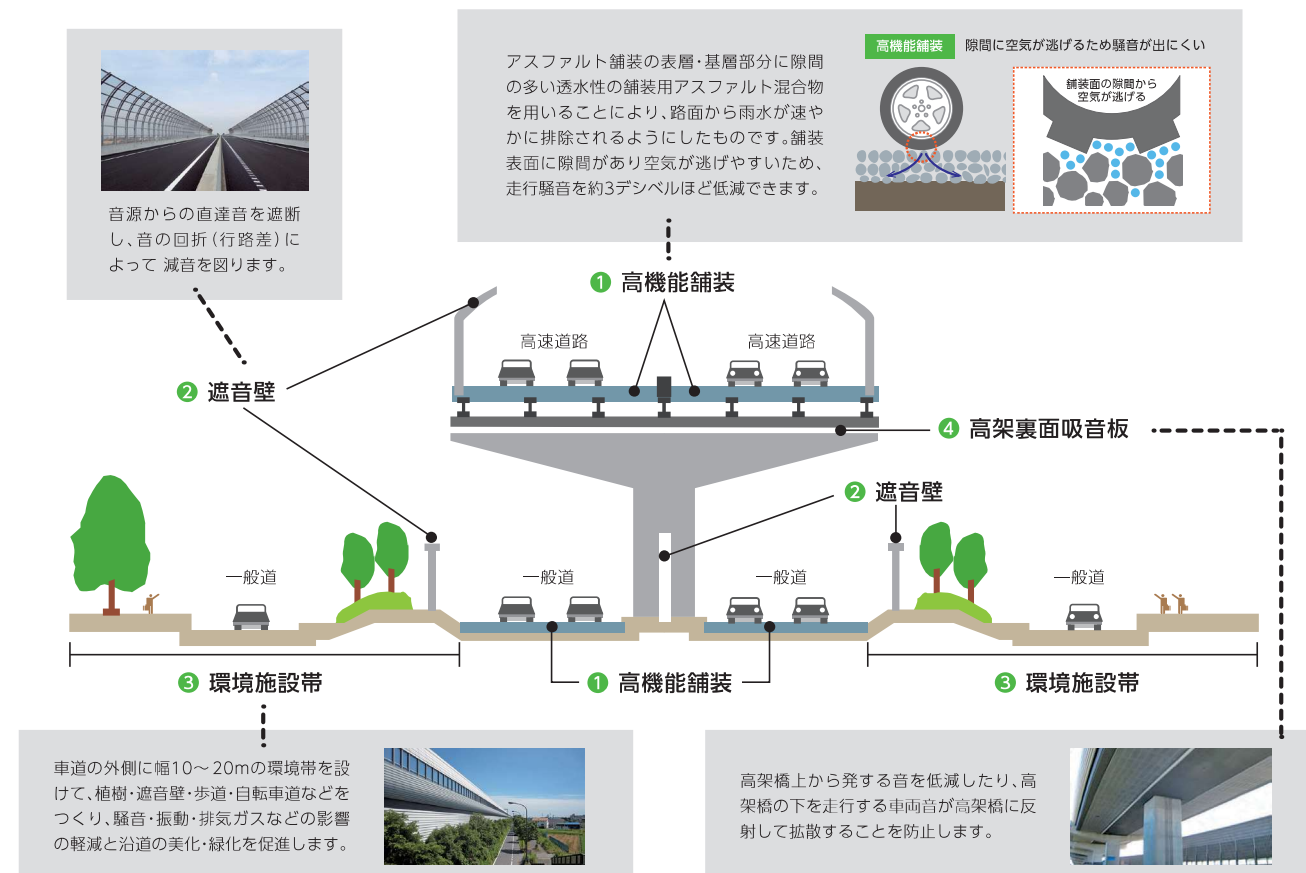


〔高速道路ネットワーク整備による一般道路の交通円滑化〕



騒音・景観対策

沿道環境に及ぼす影響の低減を図るため、遮音壁の設置や環境施設帯の整備などの対策を行っています。



自然環境の創出と生物多様性の保全

地域の生物多様性の保全と健全な生態系の維持のために「エコロード（自然環境に配慮した道づくり）」の取り組みを行っています。

〔自然環境の創出〕

自然環境と調和しながら建設事業を進める一つの対策として、ICの建設にともない、水辺、湿地、草地、中低木林や高木林などの自然環境を造成し、ICの建設前に自生していた植生や動植物の自然環境を復元する「ビオトープ」を整備しています。

圏央道 あきる野ICにあるビオトープ（2005年3月より運用）では、当初の整備から20年が経過し、2024年度末現在では、タヌキやキイトンボ、ススキなどの多種多様な動植物（約600種）の生息を確認しています。また、ビオトープ保全活動の一環として、地元小学生などを対象とした体験学習会の開催や地域住民・有識者・地元高校生と共同した保全作業など、自然とふれあう機会も提供しています。



圏央道 あきる野ビオトープ



地元小学生体験学習会の様子（あきる野ビオトープ）



圏央道 もばら-どうぶつのはし

〔生物の生息環境・行動圏の維持〕

高速道路ができることで、生物の生息環境・行動圏が分断されてしまうと、水場や餌場への経路消滅や遺伝的多様性の損失など、生態系へ大きな影響を与える可能性があります。そのため、生態系保全の取り組みの一つとして、圏央道の「もばら-どうぶつのはし」では、開削された道路にトンネルを設置し、上部を植樹することで周辺の森がつながり、生物の生息環境・行動圏の分断を避け、動物が身を隠しながら周囲の森林間を行き来できるように整備しています。この橋では、タヌキやイノシシなどの動物の横断を確認しています。また、この取り組みは高速道路に生物が侵入し、走行車両と衝突するロードキルの軽減にもつながります。

TOPICS

高速道路の緑化・美化「花プロ」 ～花と緑のやすらぎハイウェイガーデンプロジェクト～

「花プロ」は、2013年より整備を進めているSA・PAの園地を心地よい環境とするための取り組みです。管内33カ所（2025年3月31日現在）を整備し、お客さまに四季にあわせて、彩られたガーデンをお楽しみいただいています。



東北道 津軽SA（下り線）

地域とのつながり

高速道路をより身近な存在として認識いただけるように、道路が完成する前から工事内容や完成後の効果などについて、情報発信を行っています。また、営業中の道路では、地域の皆さまが生活の一部としてSA・PAをご利用できるサービスに取り組んでいます。

地域の役に立つ高速道路をPR

〔PRルームの設置や現場見学会の開催〕

高速道路ネットワークの整備を円滑に進めるためには、地域の皆さまやお客さまのご理解・ご協力が不可欠です。現場近くやショッピングセンターへのPRルームの設置、現場見学会を通して、整備効果・工事概要などを紹介しています。



秋田道4車線化PRルーム（イオンスーパーセンター横手南店 2F専門店街）



横浜環状南線（圏央道）金谷JCT～戸塚IC 現場見学会での事業案内

SA・PAを地域生活の一部に

〔ウォークインゲート（一般道側出入口）の設置〕

地域の皆さまにも、SA・PAの商業施設をご利用いただけるよう、「ウォークインゲート（一般道側との徒歩による出入口）」と一般道側の駐車場を順次整備しています。

〔地域の皆さまによる有効利用〕

地域の名産品などを幅広く取り添え、SA・PAで販売しています。また、地域の皆さまがイベントを実施する場としても活用いただいています。



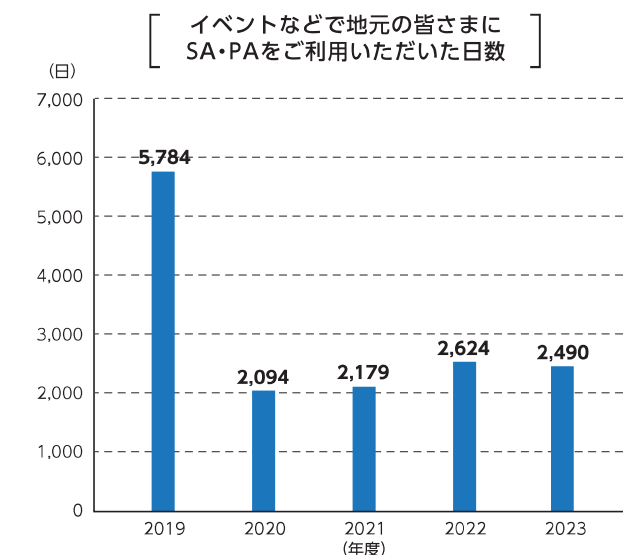
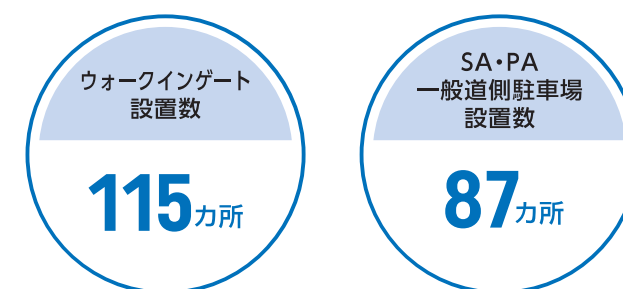
地産品の販売コーナー（東北道 蓮田SA上り線）



演奏イベント（東京湾アクアライン 海ほたるPA）



ウォークインゲート（東北道 蓮田SA上り線）



TOPICS

普段は見るできない現場を一般公開 ～上信越道 北野牧落石対策工事～

上信越道 松井田妙義IC～碓氷軽井沢IC間にある北野牧トンネル上部には、将来的に落石するおそれのある岩塊があり、これを撤去する工事を行っています。巨大な足場、工事用モノレールへの乗車や巨大なクレーンなどの重機や掘削現場の一般公開には、老若男女問わず、皆さまの関心をいただき、多数のお申し込みをいただきました。



頂上での岩塊掘削見学



工事用モノレールへの乗車

TOPICS

高速道路と福祉の連携で幸福を広げる ～高福連携の取り組み～



美化活動や福祉施設でつくった商品のSA・PA出張販売などを障がいのある方と協働し、高速道路を通じて、地域社会の活性化に貢献する「高福連携」に取り組んでいます。



福祉施設との花壇整備（後志道 小樽JCT工事用道路出入口付近）



福祉施設でつくったお菓子の出張販売（北関東道 太田強戸PA）

地域の活性化と経済貢献

経営資源で地域の暮らしや物流の利便性を支えるとともに、高速道路を使った旅行を喚起すること
とで、地域経済の活性化に貢献しています。

経営資源を地域のために

【 高架下の有効活用 】

高速道路の高架下を駐車場として利用いただくことで、周辺地域の安全な生活（迷惑駐車、違法駐車などによる通行の交通支障の緩和・解消など）へ貢献しています。

【 自転車駐車場の設置 】

自治体が推し進める放置自転車や路上駐輪などの対策に貢献するものとして、日比谷自動車駐車場には駐輪場「HIBIYA RIDE」が併設されています。駐輪可能台数は約120台を誇り、男女別の更衣室やシャワーブースも備え、ビジネスパーソンの自転車ライフをサポートしています。

【スマートICやトラックターミナルの設置 】

地元自治体と協力し、スマートICの整備（→P.31）を進め、地域経済の活性化に寄与しています。また、東北道の2カ所（仙台南ICおよび郡山IC）にトラックターミナルを設置し、首都圏と東北地方、太平洋側と日本海側を結ぶ物流の効率化をサポートしています。



「高架下駐車場」の詳細はこちら
<https://e-nexco-trustee.co.jp/business/parking/>



「HIBIYA RIDE」の詳細はこちら
<https://hibiya-ride.jp/>



「日比谷自動車駐車場」の詳細はこちら
https://www.driveplaza.com/hibiya_parking/



「東北高速道路ターミナル株式会社」の詳細はこちら
<https://www.tkdt.co.jp/>

【 高架下有効活用 】



高架下駐車場（東北道 岩槻IC付近）

【 HIBIYA RIDE 】



駐輪スペース（左）とシャワーブース（右）（HIBIYA RIDE）

【 トラックターミナル 】



仙台南トラックターミナル（東北道 仙台南IC付近）



郡山トラックターミナル（東北道 郡山IC付近）

クルマの旅を喚起し、交流人口を拡大

【 ドラぶらの旅 】

旅行サイト「ドラぶらの旅」では、「ドラ割（ETCを活用した周遊型割引商品）」と当社管内の宿泊施設を結びつける商品などを販売しています。また、普段は見ることができないトンネル管理施設といった高速道路の裏側を見学できるインフラツーリズムも提供し、多くの皆さまにお楽しみいただいています。



ドラ割セットプラン

【 地域との連携企画や情報発信 】

道中の楽しみの一つとして、SA・PAでのスタンプラリーや魅力満載のイベントを開催しています。また、「ハイウェイウォーカー（道路地図、観光情報、SA・PAの情報などを載せた情報誌）」や地元自治体などが制作した地域の情報誌をSA・PAに配置して、皆さまへご案内しています。



ハイウェイウォーカー

【 高速道路で宿泊、旅をスムーズに 】

SAに宿泊できる「E-NEXCO LODGE」を東北道の2カ所（佐野SA上下線、長者原SA上り線）で営業し、お客さまの効率的な移動に役立っています。



E-NEXCO LODGE 佐野SA店（東北道 佐野SA）



E-NEXCO LODGE 長者原SA店（東北道 長者原SA上り線）